

京都大学薬学部 SGD 演習レポート
第2回 コミュニケーション入門1

授業実施日：2018年4月18日（水）4限・5限

担当教員：石濱泰教授・高須清誠教授

対象学生：薬学部1回生83名

場所：医薬系総合研究棟2階 講義室A・C

授業の目標

第2回の目標は、「コミュニケーション能力の育成」でした。

授業の場面

① 「コミュニケーション」の概要説明

前回の授業で、大学で身につけたい能力として、ほとんどの学生が「コミュニケーション能力」を挙げていました。前回の授業との接続を意識しつつ、今回の授業の冒頭では、コミュニケーション能力が社会からも強く求められていることが説明されました。その後、「伝わる」と「伝える」の違いとして、「聞き手」への意識があるかどうかという話が、今回の授業全体にかかわる導入として展開されました。

② コミュニケーションの種類

「コミュニケーションは、言葉だけで交わされるものではない」。そのことを学生に理解してもらうため、「対人距離」についてのワークが行われました。学生を二つのグループに分けて一列に並ばせた後、不快な距離まで近づく、というワークです。ワーク後、「非言語的コミュニケーション」として、表情や視線、声の大きさ、対人距離などが関わってくるということが説明されました。

非言語的コミュニケーション

• 非言語的コミュニケーションとは

- 言葉、手話、筆談など言語的コミュニケーション以外の部分
- 受信者が自らの体験を通して感覚的に理解する

• 非言語的コミュニケーションの実体

- 身体的動作
 - 表情、視線、姿勢、身振り、服装
- 近言語
 - 声の大きさ、アクセント、話す速さ
- 空間
 - 対人距離

③ ショートディスカッション

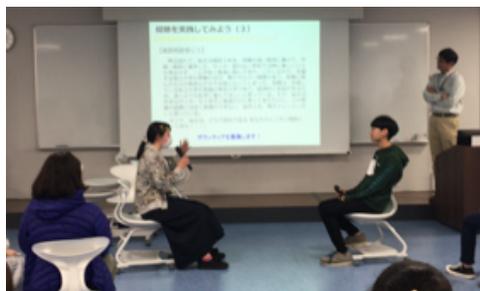
「相手の話をよく聴く（＝傾聴する）ために、どのような工夫があるか」について、3



人グループでディスカッションが行われました。その後、傾聴に必要なスキル・技術として「態度と姿勢」「位置関係への配慮」「オープン・クエスチョン」「理解の確認」など6つの観点の重要性が強調されました。

④ 傾聴に関するワーク 1：一般的な状況

進路に悩む男の子のゆうた君、彼の母親、学校の先生、部活のコーチの役を数名の学生が前で演じて、それぞれの役に対して良かった点、改善できる点をみんなで話し合いました。



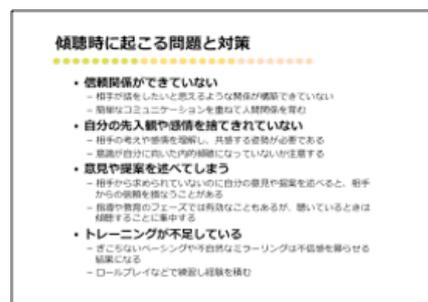
⑤ 傾聴に関するワーク 2：専門的な状況

2人1組で、一方が「不安感や焦燥感の強い患者」、他方が病院で働くボランティア役として、学んだ傾聴の方法を実践しました。



⑥ まとめ

傾聴時に起こる問題として、「信頼関係ができていない」「自分の意見や提案を述べてしまう」など4点が紹介されました。その後、それぞれの問題への解決策として、「簡単なコミュニケーションを重ねて人間関係を育む」「聴いているときは傾聴することに集中する」ことなどに関して講義が行われました。



課題

今回の授業では、良かった点や改善すべき点などを学生に考えてもらうワークが多かったのですが、どうしても肯定的な意見が多く、なかなか改善につながるような話が出てこない、という課題が見つかりました。

印象に残った点

学習コミュニティを作ることが、この授業全体の目的の一つです。今回の授業はまだ2回目ですが、15分の休み時間にはどの学生も他の学生と楽しそうに話す姿が見られました。これには授業を担当された先生も驚かされていました。

高校までと違い、ホームルームもなく、共通の授業も少ない大学の初年次教育において、このような授業実践が有効であることが伝わってくる、そんな休み時間の風景でした。

記事作成者：高等教育研究開発推進センター研究員 長沼祥太郎

監修：高等教育研究開発推進センター教授 松下佳代